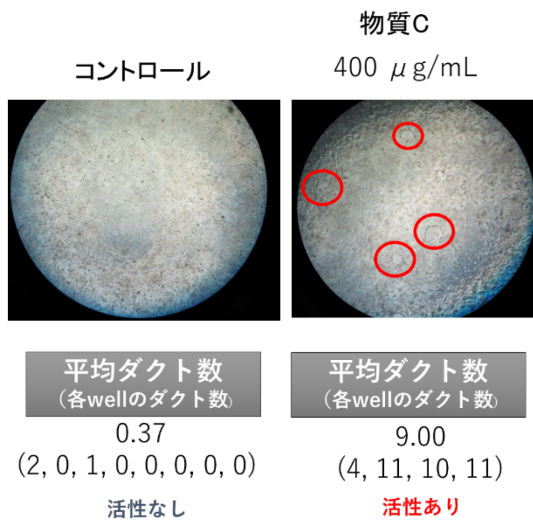


令和 2 年度 ACTR

分類 番号	A20	取組 名称	京都府希少農産物(城州白梅と京野菜)を絶滅危惧から脱却させるための食品 機能性実証と栽培マニュアル作成
研究代表者所属・職名：		生命環境科学研究科・講師	氏名： 森本 拓也
研究担当者：			
京都府立大学（森本拓也，中村考志，佐々木梓沙，板井章浩） 外部分担者・協力者（安達正寛，小野愛氏，山口俊，灰方正穂，黒須暖加）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都府城陽市，京都府舞鶴市，京都府亀岡市， 京都府農林センター園芸部，京都府山城北農業改良普及センター			
【研究活動の要約】			
本研究は、京野菜や京都の在来果樹の生産拡大と新たな需要増加に直接寄与するため、新しい食品機能性の実証や栽培マニュアルの確立を目的としている。令和 2 年度（研究 2 年目）は城陽市の特産である梅品種「城州白」を中心に、過去に科学的分析が全く行われていない京都の特産品目を対象として、以下の研究活動を実施した。 1) 城州白と京野菜の新規抗がん作用物質の探索：抗がん活性を示す候補物質を特定する 2) 城州白の栽培マニュアル作成：接ぎ木マニュアルの作成と挿し木繁殖技術の確立 3) 城州白の由来解析：ゲノムの情報を利用して城州白の由来を探る			
【研究活動の成果】			
1) 昨年度の実験で明らかとなった城州白の完熟果が有する抗がん作用の原因物質について、候補となる一成分を特定した（第 1 図）。京野菜が有する新しい機能性を発見するための抽出物ライブラリについて、昨年度未作成であった新規品目を追加作成した。 →今後、活性本体を特定することで、城州白と京野菜に新しい付加価値を提供できるため、生産・需要拡大や新商品の開発が期待されます。 2) 接ぎ木のマニュアル作成を行い、挿し木繁殖の条件を効率化した（第 2 図）。 →効率的な苗木繁殖に繋がる接ぎ木・挿し木の技術確立と普及によって、生産拡大に貢献できます。 3) 城州白は南高梅と近い品種であることが明らかとなった（第 3 図）。 →さらに詳細な調査を行うことで、城州白の由来を明らかにすることができ、歴史背景からもブランド化を推進できる可能性があります。			
【研究成果の還元】			
< 成果報告会 > 2021 年 3 月 9 日，京都府立大学生命環境学部附属農場，京都府民 約 25 名，「精華キャンパス ACTR（地域貢献型特別研究）成果発表会」 < 論文 > Phenotypic diversity of organic acids, sugars and volatile compounds associated with subpopulations in Japanese apricot (<i>Prunus mume</i>) cultivars (投稿準備中)			
【お問い合わせ先】 生命環境学部（研究科） 果樹園芸学研究室 講師 森本 拓也 Tel: 0774-93-3265 E-mail: morimoto@kpu.ac.jp			

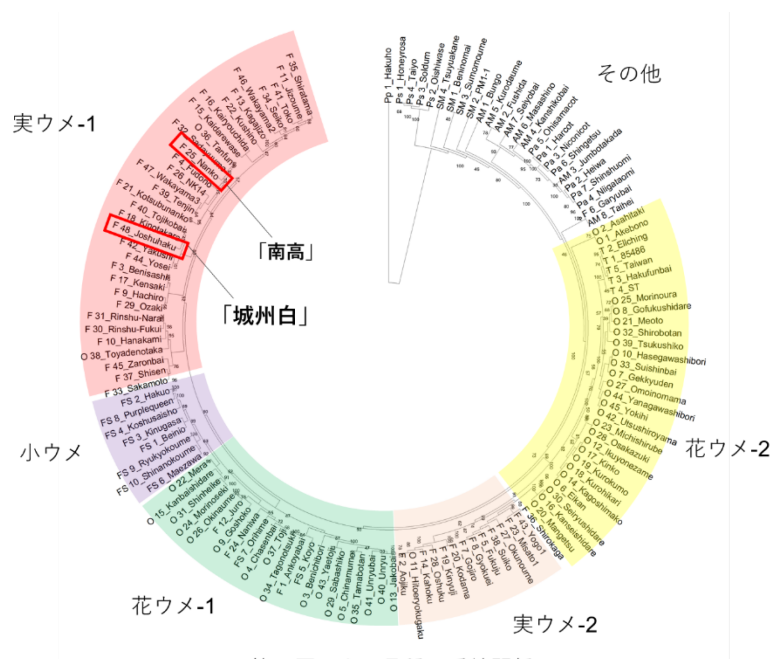
参考（イメージ図、活動写真等）



第1図 城州白が有する抗がん活性本体の候補物質の探索



第2図 城州白の挿し木による発根の様子



第3図 ウメ品種の系統関係